



クローズアップ
CLOSE UP

桜色に染まり春本番

3月25日、前橋地方気象台がソメイヨシノの開花を観測。平年より6日早い開花となりました。3日後の28日には満開に。開花から満開まで天候に恵まれた本市。前橋公園や敷島公園、赤城南面千本桜などの市内の名所は、今年も多くの花見客でにぎわいました。



未来照らす新シンボル

芸術家・岡本太郎の作品「太陽の鐘」が広瀬川河畔緑地帯に設置されたことを記念して、3月31日にイベントを開催。作品修復に携わった太陽の会メンバーや設置のきっかけを作った糸井重里さんらが鐘を突き、新しいシンボル誕生を来場者と盛大に祝福しました。



赤城南麓の目印ここに

富士見町小暮で3月28日、スローシティ「前橋・赤城」のシンボルモニュメントのお披露目が行われました。スローシティ国際連盟の象徴、カタツムリがモチーフのモニュメントは県内在住の作家・茂木康一さんの作品。個性豊かな表現が訪れる人々を迎えます。

いきいき
まえばし人

まえばし紫陽花フェスティバル
実行委員長
小林 信吾さん・55歳
住吉町二丁目

前橋の宝・広瀬川を磨いて

「生まれも育ちも前橋だから、まちなかがにぎわっていた時も、にぎわいが落ち込んだときも、ずっとそばで見ました。自分に何ができるだろうと考えた時に思い浮かんだのが、子どもの頃から慣れ親しんだ広瀬川でした」
毎年6月、梅雨の時季を迎えるとアジサイが咲き誇る広瀬川。道行く人を楽しませるアジサイに、水やりなどの世話をするのが小林さんだ。
「初めは思い付きだったんですよ。柳の涼しげな緑に花の色が合わさったら、きっと美しいだろうなって」
アジサイは美しさだけでなく育てやすさもあり、パンジー

などの花のように毎年植え替える必要がなく、費用も抑えられるという。
「広瀬川は日当たりも良い場所なので、毎年本当に立派なアジサイが咲くんですよ」
まえばし紫陽花フェスティバルでは商店街や企業などと協力し、さまざまな催しでまちなかを盛り上げる。手塩にかけて育てたアジサイが、にぎわいにつながっている。
「広瀬川は前橋の宝の1つです。自分ができるやり方で宝を磨いて、まちの価値向上につながるのいいですね」
老若男女を癒やすアジサイ。今年も大輪を咲かせるため、日々の手入れを続けていく。



創造の森から
アーツ前橋
館長日記 Vol.1



岡アーツ前橋
☎027-230-1144

アーツ前橋の住友文彦館長が日々のあれこれをつづるこのコーナー。第1回は横堀角次郎の描いた風景についてです。
この春から、コラムを担当することになりました。アーツ前橋で行う展覧会の話題などを交えながら、気ままに書こうと思っていますので、どうぞよろしくお願いします。
早速ですが、横堀角次郎展はもう見ていただいたでしょうか。彼は大胡地区出身で、赤城山を描き続けた画家です。他にも、東京で暮らしていた時には、東京大学の構内にある三四郎池など、お気に入りの風景を何度も描く人でした。何度も同じ場所を訪れて、木の葉や光が作り出す細かな変化を見つけ、どのよ

うに描こうかと、毎回楽しんでいたのでしよう。
岸田劉生^{（りゅうせい）}の画風を踏襲した草土社を離れてから、横堀は自由な描き方を試みます。ぜひ展示室を歩きながら、その変化を追ってみてください。画壇の評価よりも、自分の感性の赴くままに自然と対話した一人の画家の一生を追体験できるはずですよ。
特に私が好きなのは、草土社の画家たちが好んで描いた東京郊外の風景のコーナーです。それから、春陽会初期に、色数を絞って柔らかい線で風景を描く独特のスタイルを試した作品や、大胆な筆のはらいと鮮やかな色を使う後期の三四郎池を描いた作品も。作品が並ぶと圧倒されますが、その中から自分はこちらが好きだ、という作品を見つけると、一気に身近に感じますよ。

